

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	筑西市立河間小学校 小学1年生～4年生：パラリンピックの紹介 小学5年生・6年生：目標をもって生きる大切さ
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 学級活動 ） ② 行事名（ パラリンピアン講演会 ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 1 イベント名（ ） 2 その他（ ）
4 目標 (ねらい)	(1) パラリンピックの目的と内容を理解する。 (2) パラリンピックに出場する条件を理解し、障害のある人と接するときの留意点を考え、人権尊重の大切さを学ぶ。 (3) 障害があっても夢に向かってくじけずに努力することの尊さを学ぶ。また、たくましく生きていこうとする意識を高める。
5 取組内容	(1) 1年生から4年生は、写真等でパラリンピックという言葉と内容を確認し、5年生と6年生は教材「I 'm POSSIBLE」を用いて学級活動を行い、パラリンピックの目的や内容について学習した。 (2) パワーリフティングの三浦選手に河間小学校に来校していただき、1年生から4年生には映像やクイズでパラリンピックの紹介をしていただいた。 (3) 5年生と6年生は、それぞれ教材「I 'm POSSIBLE」を用いた2回の学級活動を行い、パラリンピックの内容に関する理解を深めるとともに、講師の三浦選手から体験談を聞いた。 (4) 小中学校一貫の取組として、下館北中学校で主催したパラリンピックの理解啓発の講演会に5年生と6年生が参加し、走り高跳びの鈴木選手の講演を聞いた。 (5) 学級活動や人権集会でパラリンピックの選手から学んだことを確認し、自分の生活に生かしたいことをまとめた。

6 主な成果	<p>(1) パラリンピックという言葉や内容、意義などの理解が深まり、パラリンピックの選手を応援しようという意識が高まった。</p> <p>(2) パラリンピックに出場する選手のハンディを考え、障害のある人と接したり共に社会生活を送ったりするときの留意点を確認することができた。その内容は、人権集会のまとめにも数多く表現されており、インクルーシブな社会で生活する基礎づくりにつながった。</p> <p>(3) パラリンピックで金メダルをとるという目標に向かって、障害を乗り越えて努力し、たくましく生きることの尊さについて理解するとともに、目標をもって一生懸命に生活しようとする意欲が高まった。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>(1) 学年段階で分けて講演や授業を行い、発達の段階に応じた内容になるように工夫した。</p> <p>(2) 5年生・6年生の授業をチームティーチングで行い、効果的に指導できるようにした。</p> <p>(3) 講演会では、質問の時間を十分にとり、パラリンピックの選手を身近に感じるとともに、応援したいという意識を高めた。</p> <p>(4) 下館北中学区の小学5年生・6年生は、下館北中学校でのパラリンピアの講演会に参加し、共通認識を図った。</p>
8 主な課題等	<p>(1) オリンピックやパラリンピックの選手が身近にいないため、積極的に理解しようとする意識に欠ける児童が多い。校内の掲示板にも2020年(オリンピック・パラリンピックイヤー)を意識させる掲示があるが、関心が低い感じがする。</p> <p>(2) パラリンピックの選手の講演を生かして人権意識やインクルーシブな社会で共生する態度を高めようとしたが、時間の経過と共に意識が薄れている感じがする。継続して指導する必要がある。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>(1) 意識を高めるために、オリンピック・パラリンピックで関心のある競技や応援したい選手に関するアンケートをとり、その本や資料を準備したり写真を掲示したりする。</p> <p>(2) パラリンピックのパワーリフティングの三浦選手と連絡を取り、現在のトレーニングの様子や調子について児童に伝えるとともに、応援メッセージを書くなどつながりを大切にする。</p> <p>(3) 「〇〇オリンピック」としての活動を取り入れ、競い合い高め合える集団になるように指導する。</p>